

まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.26

努力は報われる ～ 2学期始業式 ～

今年の夏は、パリ・オリンピックにはじまり、インターハイや高校野球など、とかくスポーツの話題が多かった一か月でした。結果は様々ですが、選手の活躍からたくさんの感動をもらうことができました。上位入賞やメダルの獲得は選手の努力が報われた瞬間でもあります。その活躍の陰には、選手一人ひとりの計り知れない努力があったことは言うまでもありません。夏休み中の皆さん活動でも、吹奏楽部のコンクールでの演奏も素晴らしかったですし、男子ビーチバレーボールの全国大会での選手の頑張りも素晴らしいものでした。その背景にもそれぞれの努力の積み重ねがあったはずですよ。



そもそも「努力」とは何かということですが、皆さんはどのように考えますか。努力とは、ただやみくもに頑張ることではなく、自分の目標に向かって「計画的に行動し続ける」ことです。この行動の積み重ねによって、最終的には結果を生み出しますが、それは一朝一夕にしてできるものではありません。

では、「努力が報われる」とはどういうことでしょうか。努力が報われる瞬間は、人それぞれ違います。ある人は試験での高得点や大会での優勝といった具体的な結果で感じるかもしれません。しかし、すべてが目に見える結果として確認できるわけではありません。行動を通して自分自身の成長を感じることもあります。困難に立ち向かいそれを乗り越えた経験によって、自分に自信を持つことができるようになったということもあるでしょう。つまり結果が出なくても、その過程で得られる経験は将来必ず役に立つ。これが報われるということかもしれません。

私は大東高校生の良さを一言で表すと、「素直でひたむきである」ことだと思っています。それはこの地域の穏やかな環境や、ここに住む人々の穏やかな人間性が作り出しているとも言えます。この良さを継承していくために、皆さんの心にしっかり留めておいてほしいことは、学校という場所は「努力は報われる」という原理原則で動いている場所だということです。

しかし、努力したけれどもうまくいかなかったという場合は当然あります。間違えたり失敗したりする



ことだってあります。しかし、それでもやはり「努力は報われる」と信じてひたむきにやっていくしかないのです。「素直にひたむきに努力する」この姿勢を軽視するような人や雰囲気が出てきた時、学校の集団は荒れていきます。ひたむきに努力する人がいて、そして周りに伝播していく。それが、皆さんに期待している大東高校の生徒としての姿です。